2024_0818「火星と木星の大接近（写真）」日々の理科 3664 号

お茶の水女子大学　サイエンス＆エデュケーション研究所　田中　千尋

・

ここ数日、火星と木星が接近して見えています。「接近している」といっても、両惑星の実距離が近づいたわけではなく、単に観測者（地球）から見て、離角（見かけの離れ方の大きさ）が小さくなっただけです。つまり、たまたま地球-火星-木星がほぼ一直線に並んでいたということです。

８月１５日には火星と木星の離角がわずか 0.3 度まで縮まりました。満月の見かけの直径が 0.5 度ですから、惑星同士の接近としてはかなり小さい値です。しかし、今の時期、木星も火星も「おうし座の角」付近に位置しています。おうし座は冬の星座です。冬の星座を夏に観測するには、明け方の東の空に昇ってくるのを待つしかありません。これは相当に根気がいる観測になります。

私は見逃しましたが、天体好きの友人が静岡県河津市（伊豆半島）で撮影してくれました。夏に撮影した冬の星座に、明るい外惑星が二つ。「アルデバラン（おうし座）」、「スピカ（ぎょしゃ座）」、「すばる（プレアデス星団）」なども写っています。なかなかの傑作だと思いました。

（2024 年 8 月中旬／静岡県河津町／友人撮影）